

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	触りたいと感じる立体形状に関する研究				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	藤田 雅也
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	藤田 雅也

講演題目	触りたいと感じる立体形状に関する研究
------	--------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

【研究の目的と成果】
 本研究では、粘土を触る行為とつくり始めの形状について、大学生を対象とした調査を実施し、触る行為と表現活動の関係性について分析を行った。触りたいと感じる粘土の量と形状を制作者が自己決定するという活動を取り入れることによって、その後の表現活動に対する意欲や、出現する行為にどのような変容が生じるのかを検討するためである。2022年度から2025年度にかけて、継続的に調査を実施し検証を行った結果、大学生が触りたいと感じる粘土の形状は、①表面が滑らかである、②球や直方体等の幾何学的な形状である、の2点の傾向が強いことが明らかとなった。また、粘土を使った表現活動では、個包装による一定量の粘土を提供し使用させるのではなく、制作者自身が触りたいと感じる粘土の量を自己決定し、つくりたいと感じる形状に変えるという導入を取り入れることによって、すべての粘土を使い切って表現しようとする傾向が強いことも確認できた。

【今後の課題と展望】
 今後の研究課題は、触りたいと感じる形状や、つくりたいと感じる形状には、普遍的な選好する要素があるのかについて究明することである。その理由が、形状に基づくことであれば、「球」だけではなく、「楕円」や「卵型」等を含む曲面を持つ立体形状に焦点を当てた調査を計画・実施することによって、その要素がさらに究明できると考えるからである。次年度以降の研究では、曲面によって構成される複数種類の立体形状について先行研究を基に6～10種類を抽出し、その形状を3Dプリンターにて製作する。今後展開していく、3Dプリンターを用いた立体形状の製作にあたっては、株式会社GOCCO（岐阜県大垣市）の協力が得られることになっている。そして、製作した立体形状を用いて、大学生及び成人を対象とした触る行為に関する調査を実施し、その結果を分析することによって、人が触りたいと感じる立体形状について、さらなる検証を重ねていくことを計画している。人が触りたいと感じる立体形状の傾向をより詳細に究明することができれば、日常生活の中での空間デザインや、立体形状との出会い方等を検討する際の新たな知見となり、造形・美術教育の研究のさらなる発展にも寄与することが可能になると考える。